
shy*Wing*sky

すもも

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Shy* Wing* Sky

【NZード】

N8487E

【作者名】 すもも

【あらすじ】

俺シャイだからさ、君に話しかけるの、超勇氣いるんだよね。つか、毎日君を見るだけで幸せなんだけど笑・・・

今、君に伝えたい事がある。

今伝えないと、多分長いこと伝えられないから。

だからすぐ行くから。

「・・・待つてうよ

12月後半、この寒空の中、少年はひたすら自転車を漕ぐ。

「寒・・・」

中学時代で一番ハジケル時期、中2の少年、朝倉翼。

一見ただのチャランポランだが、ただのチャランポランではない。

好成績、スポーツ万能、しかもサッカー・野球、水泳、卓球、長距離走など、さまざまな種目で大会で優勝している、スーパー少年なのだ。

おまけに高身長のイケメン。

女子が黙つているはずない。

毎日毎日懲りずに翼に媚びる女子。

毎日毎日お弁当を作つてあげる女子（学校給食があるところ）・・・

たくさんの女子がさまざまな手段で翼をモノにしようとする。

まあ、幼稚園の頃からこんなんだつたから、当の本人はもう慣れっこだが・・・。

こんなにモテるので、いろんな噂が流れる。

「もう20人以上と付き合ってる」だとか

「S プレイが好き」だとか「本当は未来人なんだ」だとか。

・・・すべて嘘である。単なる噂である。

翼は、今までの人生でたった1度も女性と付き合ったことがないし、童貞だし、れっきとした現代人である。

ただ、1つだけ本当の噂がある。

「朝倉翼は、栗田空のことが好き」・・・・と。

この噂は割と新しいもので、翼本人がそれを耳にしたときは、もうホントびっくり仰天。

無理もない。自分が空のことを好きだとゆうことは、ずっと、自分の胸に秘めて、誰にも言つてなかつたからだ。

言つてなかつた、といつより、言つて言えなかつた。

なぜなら翼は今時流行りのシャイボーイ。

友達に相談したいのは山々なのだが、言えなかつた。

では、何故バレたのか。

簡単なことだ。翼の行動がバレバレなのである。

授業中、後ろの席から彼女をガン見。空がちょっと頭を動かすと、もの凄い勢いで目をそらす。

廊下でそれ違つたあと、3歩あるいて、ひりひりと後ろを確認。もちろん空は振り返つていなが。

友達と話している時でも、横目で空の居場所を確認。話の内容が下ネタの場合、ボリュームを五十分の一倍する。

そんな翼のバレバレな行動を、普段から翼のことを見ている女子達が、見逃すわけがない。

尊になるわけだ。

女子達は「なんであんな子がいいのーっ！」

「いやーーー！」

「ウチの方が10倍可愛いのに・・・」

「諦めないわーーー！」

「あンの糞アマがあああーーー！」

・・・と、それぞれの不満を口にしていた。

確かに空は、他の女子と少し違っている。

翼を見てキヤーキヤー言わないし、むしろ見ない。

性格は、例えるなら、H ア ゲ ンの綾 レ といったところだ
う。

こげ茶のロングヘアに、透きとおった白い肌。皿は一重でパツチ
リ。

容姿はア カ似。

先ほど、「ウチの方が10倍可愛い」と言った子の100倍可愛いだろう。

この美少女のことを見た頃から思はず、一途な美少年、翼。

今時流行りのシャイボーイなので、彼女にあまり話しかけることができないが、おそらく、毎日空と学校生活を送ることができ、幸せだったであろう。

少年のニヤケ顔が物語っている。

しかし、この幸せ顔の少年に転機が訪れた。

転校。

それも沖縄。ここ東京。

なぜって、

親が離婚。理由は父親の浮気。

だから、母がたの両親が住んでいる実家に帰る・・・とや。

ありふれた話のような氣もするが、少年にとつてショックがすぐ大きかった。

いや、父と別れたことじやなくて、当分は会えないこと。

・・・父とはもう会えないかもしれないのに・・・父よ、『愁傷様
です。

だいたい、学校が休みの土日だけでも精一杯だとゆうのこ、何ヶ月も何ヶ月も空に会えないときたら・・・・・。

少年は悲しみに暮れた。枕をびっしょりとするほど泣いた。

非常に涙もろい少年である。

ちよつと、終休みが始まったころだった。

そして、明日が出発日。

翼は歎んだ。歎みまくった。

朝6時に起きてずっと歎んでいた。

そして後悔しました。なんでもひとつひとつ話せなかつたんだつづ
て。

そして知つた。

後悔しても無駄だつてことを。だからこれからは毎つのなつて
生きよつと。

少年は一步成長したのである。

むろん、新たに決心をしても過去には戻れないが。

少年は空に自分の気持ちをつたえよつと想つた。

しかし、しつこじょうだが、翼は今時流行りのシャイボーイである。

とても出るなんて行為はできない。

しかし…

つこわひや、「悔いのないよう生きる」と決心したばかりだ。

ここで、諦めては、バリバリ悔いが残る。

シャイボーイでも、男は男だ。

・・・時刻は午後7時。

翼は急いで洗面所へ行き、顔を洗い、歯を磨き、ワックスをつけた。

そして自転車に飛び乗り、栗田家へ向かつた。

朝倉家からは母親の怒声が聞こえる。

そりやそりだ。明日の4時出発で、母や兄弟たちはみんな忙しく支度をしてくる。

そんな中、翼は何も言わずに家を飛び出していくのだから、母がキレるのも当然である。

栗田家までは、長い橋を越え、浅倉家から結構遠いはずだが、あつという間に着いてしまった。

自転車を止め、栗田家の前で佇む少年。30分ほど、棒立ち状態だつた。

かなり怪しい。

しかし、そんな告る前の、予想を遥かに超える極限の緊張の中でも、翼は言ひ事を整理していた。

あと、あともう少しじる・・・つとてひいて、いきなりドアが開いた。

空だった。

予期せぬ出来事に固まる翼。さすがシャイボーキ。

『・・・さつきから何? 朝倉君。』

「え、え、何つて、」

気付かれていた。まあ、2階の空の部屋から翼は丸見えだったといつことだ。

『何か用?』

さすが綾 レ セツベツセツベツ!

しかし、絶対に翼と田を合はせようとはしない。

「あ、俺明日、沖縄・・行くんだよね・・・・

翼も翼で、ずっと下を向いている。

『旅行?』

「いや、俺、転校することになっちゃったんだよね。沖縄に・・・だから、・・・・

・・・・あつと下を向いてしゃべっていた翼はハツとする。

地面上に黒い斑点が、ポツポツとできてくれる。

雨かな、と上を見上げるが、違かつた。

『……転校、するの……？』

……あまつにもびっくりして、一瞬、時が止まつた気がした。

だつて、あの空が泣いているから。

『そんな……やだよ……』

あの空が声を押し殺して、泣いてくるのだ。

「転校する」その一言で、一瞬にして空の人格が変わつた。

綾 レ は一休じくへやら……。今はただの駄々つ子だ。

『やだやだー朝倉君のいない毎日なんて糞以下だよー。』

翼はただ呆然とするしかなかつた。

あの空が、自らの口から……糞？

いやいや、やうじやなくて、泣いてる……？

いや……そうじゃなくて……俺のいない毎日なんて糞……？

「そ、空……それってもしかして……」

『……す、好きなの……』

空はわんわん泣き続ける。

その横で翼は足の先から頭まで、全身真っ赤にしてしゃがみ込んだ。

畠田をしに来たのに畠田されるとは……。

実はこの少女、栗田空もシャイガール。

そつけない態度をとっているが、それは全て照れ隠しのため。

だから自分の部屋の窓から翼が見えた時はもつ大興奮……！

ゆでダコ状態になつたと……。

翼のところへ行こうとしたが、このタコ顔では絶対行けない。

なぜなら彼女はシャイガール。

鏡の前で苦戦すること40分。

やつと作れたポーカーフェイス。

しかしその努力も水の泡。

今は真っ赤っかでぐぢゅぐぢゅな、ゆでダコをやひしゆでた状態。

顔は・・・猿?

美少女の欠片も残つていない。

『私、幼稚園の時から、ずっと朝倉君の事好きで、・・・でも私この性格だからしゃべれなくて。朝倉君も、なかなかしゃべりかけてくれないから、私に興味ないのかなって、ずっと思つてた。・・・でも、毎日朝倉君に会えて、声が聞ける。これだけで幸せだなって、思つてた。』

・・・まつたく翼と同じである。すべて。

『でも今、後悔してる。・・・勇氣を出して、もっといっぱいしゃべれば良かった。もっといっぱい、しゃべりたかった・・・!』

まつたく同じであった。

ただ、ふたりともあと一歩が踏み出せないだけだった。

『……ねえ、朝倉君？どうして来たの？』

少女は鈍感であった。

告白されるなんて、みじんもおもっていなかった。

だからこそ、自分からしたのかもしない。

「お、俺は……えと、何しに来たんだっけ？」

あまりにびっくりするような事が起きまくって。翼の頭はパ一くつ
ていた。

確か俺、告じにきて……

そしたら空が泣いて？

幼稚園のこりから俺が好きと。

もっと俺としゃべったかった……？

空が俺に……告白？

「ああッ！」

翼はものすごい勢いで立ち上がった。

「す、好きです！…俺も！幼稚園の頃からずっと…」

やつと頭が正常に働いたのか。

「転校なんてしたくないけど、しうがないから、俺と、長距離恋愛してくれませんか！」

空は、大きい田をさらに大きくした。

『よ、喜んで』

空の少し裏返ったような声は、翼の奥の奥まで届いた。

そして泣いた。なんともいえない感情が込み上げてくる中、栗田家の家族が窓からこちらを見続ける中泣いた。

涙もろいところもやつくつだった。

シャイで、シャイ過ぎる二人は、今、改めて向かい合った。

『最初からこうだったら良かつたのにね。』

「確かに。俺ら一人揃つてシャイだったみたいだな。」

・・・・・

翼は氣づく。ムード的に、 、 、 キスをしなければいけないような空氣になつてゐることを。

でも彼は・・・

「今度絶対こいつち来いよ！待つてゐからを・・・」

・ 、 キスは今度までお預け

なぜなら彼は・・・

『別に行つてあげても構わないけど?』

そして彼女も、 、 、 シャイだから

そして、 2人の長距離恋愛は始まるー・・・。

どちらともシャイなので、 どちらが先に連絡をとるか悩みまくった
とき

シャイな2人に幸福あれ

おしまい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8487e/>

Shy*Wing*Sky

2010年10月14日06時48分発行